

達成目標の進捗状況

社会増減 毎月人口異動調査（企画振興部調）	年	基準値(2017)	目標値(2022)	最新値(2022)	進捗状況
	数値	△456人	△171人	△123人	A
移住者数 （企画振興部調）	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2022)	進捗状況
	数値	142人	198人	110人	D
創業・立地件数 （産業労働部調）	年	基準値 （2012～2016累計）	目標値 （2018～2022累計）	最新値(2022)	進捗状況
	数値	16件	増加	28件	A
除雪作業中の事故件数 （危機管理部調）	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2022)	進捗状況
	数値	23件	減少	10件	A

（社会増減）

- コロナ対策の出国制限により外国人数が減少し、2020年には社会減が一時的に拡大したものの、全体的には縮小傾向となった。

（移住者数）

- 北陸新幹線飯山駅開業後は100人を超える移住者数を維持している。また、コロナ禍による移住への関心の高まりなどにより2021年度には過去最高の値(178人)となったが2022年度は110人と減少した。

（創業・立地件数）

- 創業応援減税に関わる創業認定は5年間で27件。
内訳は、卸売・小売業7件、サービス業6件、飲食・宿泊業4件、建設業3件、農業・林業3件、医療・福祉2件、その他2件。
- 工場立地（1000㎡以上の用地取得）は5年間で1件（生産用機械器具製造業）

（除雪作業中の事故件数）

- 雪害事故の発生は積雪量に左右され、2021年の44人が最多、2019年の4人が最小である。
- 屋根の雪下ろし中の事故、除雪中の事故（除雪機による事故も含む）が各4割となっている。

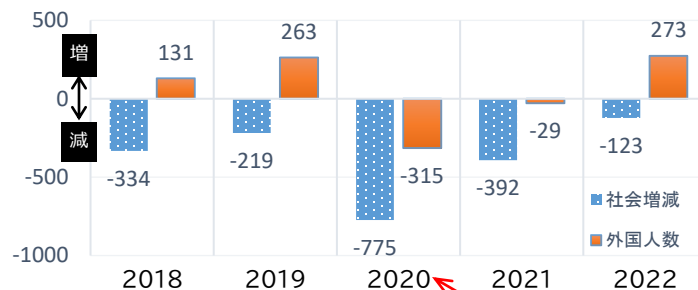
【地域重点政策の評価】

- ・ 移住を促進するため、YouTube等による北信地域ライフスタイル情報の提供や、市町村担当者向けのスキルアップ研修会を実施した。
- ・ 中小企業の創業等を支援するため、創業促進税制による創業認定を行い、創業の促進や経営安定化を支援した。
- ・ 除雪作業中の事故防止を図るため、安全対策講習会等による事故防止の啓発活動を実施した。

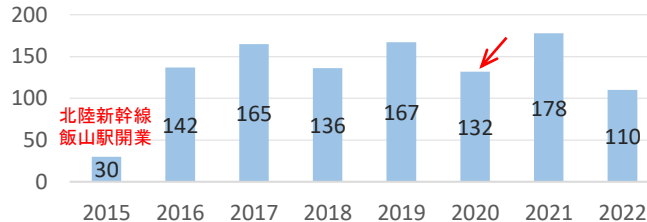
【今後の取組の方向性】

- 北信地域に愛着を感じる人々や若者が定着する地域とするため、若年層へのふるさと教育の充実、地域活性化と地元への定着が期待できる地域おこし協力隊への起業支援を推進する。
- つながり人口の創出や移住者の定着を図るため、地域の自然やライフスタイルなど魅力の発信や地域との交流を進める。
- 創業しやすい環境を整備するため、関係機関と連携して創業支援制度の周知を行うとともに、創業後の経営課題などについてフォローアップを行う。
- 除雪作業の安全対策を進めるため、市町村と連携した啓発活動や克雪住宅の普及を促進する。

管内市町村の社会増減の推移と外国人数(社会増減内数)



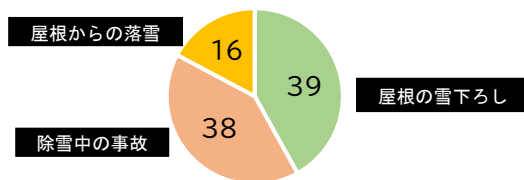
県外から管内市町村への移住実績 新型コロナウイルス感染拡大



管内の雪害事故内訳

原因	被害者数(人)				
	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
雪崩	0	0	0	0	0
屋根の雪下ろし	8	0	10	17	4
除雪中の事故	3	4	12	14	5
屋根からの落雪	0	0	2	13	1
その他	0	0	0	0	0
合計	11	4	24	44	10

管内の雪害事故(2018-2022、全93人)

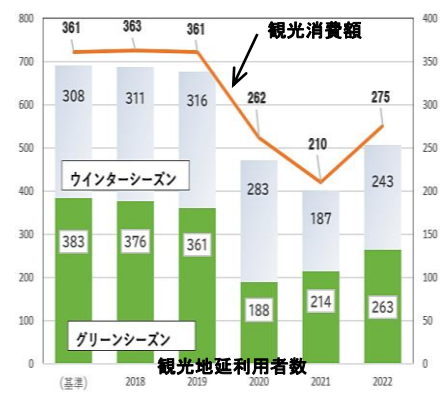


達成目標の進捗状況

観光地延利用者数 観光地利用者統計調査(観光部調)	年	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2022)	進捗状況
	数値	691万人	719万人	506万人	判定せず
春季から秋季の観光地利用者数	数値	383万人	400万人	263万人	判定せず
冬季の観光地利用者数	数値	308万人	319万人	243万人	判定せず
観光消費額 観光地利用者統計調査(観光部調)	年	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2022)	進捗状況
	数値	361億円	376億円	275億円	判定せず

● 2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光地延利用者数は大きく減少し、2021年は基準年の58%まで落ち込んだが、2022年は基準年と比較して73.2%まで回復した。観光消費額は、2021年に基準年の58.2%まで落ち込んだが、2022年は76.2%まで回復した。

観光地延利用者数と観光消費額の推移



【地域重点政策の評価】

- ・通年型の稼げる観光地域づくりを推進するため、信越自然郷を中心としたサイクルツーリズムの推進等によるグリーンシーズンの観光誘客やスノーリゾート受入観光地の形成支援などを行った。
- ・コロナ禍であっても、日本酒や食品を紹介したパンフレットや動画等を制作し、地域の魅力発信と周遊観光地づくりを行うとともに、県境地域の観光振興を図るため他県と協働で首都圏において北信地域の魅力を発信するセミナーを開催した。

【今後の取組の方向性】

- 国際競争力の高いスノーリゾートの形成とグリーンシーズンのアクティビティ充実等による通年型観光を推進する。
- 北信州の自然・歴史・文化等を活用した、国内外からの誘客活動を推進する。
- 信越自然郷を中心とした県域を越えた広域観光を推進する。

達成目標の進捗状況

果樹戦略品種等の栽培面積 (農政部調)	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2022)	進捗状況
	数値	253ha	460ha	474ha	A
良食味米、業務用米等の栽培面積 (北信地域振興局調)	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2022)	進捗状況
	数値	535ha	650ha	521ha	D

(果樹戦略品種等の栽培面積)

- りんご・もも等から、消費者ニーズが高く、高価格のシャインマスカット等ぶどう新品種への転換が進み、栽培面積は基準値比187%の474haと大幅に拡大した。
- 新品種等の栽培面積が拡大。消費者ニーズの高いシャインマスカットが基準年比483%、長果G11(商標 クイーンルージュ®)も皆増となっている。

(良食味米、業務用米等の栽培面積)

- 良食味米(400ha、基準年比△57ha)は夏季の高温により基準を満たす米が減少した。
- 業務用米(55ha、同+50ha)は需給調整が続く中、産地の営業努力により供給先・販売量を確保している。
- 酒米(66ha、同△7ha)は、コロナ禍による日本酒の需要量が低下した影響が大きく、基準年には達しなかった。栽培面積及び酒蔵との契約は戻りつつある。

【地域重点政策の評価】

- ・果樹戦略品種等の栽培面積拡大に向けて、「北信州農業道場」による栽培管理技術の研鑽、長期出荷体制づくり、新品種の早期産地化等の取組を行った。
- ・良食味米・業務用米の栽培面積拡大に向けて、基本的栽培技術の徹底や栽培講習会の開催、実証ほ場の設置等の取組を行った。
- ・品質確保に向けた、適切な技術指導等を行う必要がある。

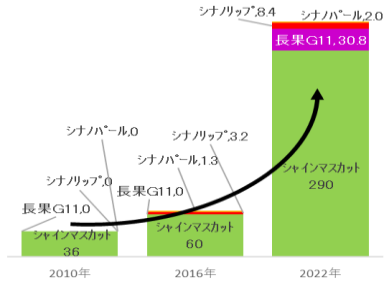
【今後の取組の方向性】

- 果樹は、バラエティに富んだ品種を生産する魅力的な産地・マーケットニーズに対応できる産地とするため、県オリジナル品種等の生産拡大と高位安定生産を推進する。
- 良食味米・業務用米・酒米を安定生産するための技術指導と認知度の向上を推進する。
- 新規就農者の確保や実践的な栽培技術の習得指導等により、農業経営の担い手の確保・育成を推進する。

果樹戦略品種等(北信地域)

新品種【増加】	ぶどう: シャインマスカット、長果G11 りんご: シナノリップ すもも: シナノハル
従来品種【増(ばい)】	ぶどう: ナガノパープル りんご: シナノドルチェ
従来品種【減少】	りんご: シナノスイート、秋映、シナノゴールド

新品種の栽培面積の推移 (単位: ha)



米・食味分析鑑定コンクール入賞件数割合(2018-2022合計)

